

Equality

—— 誰もが平等の権利を持つ社会へ ——

99号

男の子にも知ってほしい
男女平等

文京区男女平等センター

そうじゃ ないんだよ

ここに書いてある気持ち、同じように考えたことはありますか？
誰かに言われたことは、誰かに言ったことは、ありますか？
きみの周りには、当たり前のように思えることを、ちょっと立ち止まって一緒に考えてみてください。

文京区男女平等センターでは過去3回にわたりアンケート調査を実施、延べ1,816名の方からご回答いただきました。その中で、見えない差別：アンコンシャスバイアスが、いかに生活のほぼすべての場面に及んでいるかが浮き彫りになりました。今号では、調査から出てきた課題のうち、特に「男の子」に知ってほしいことを中心に、誰もが平等な社会になるためのメッセージをおくります。

お父さんのほうがお母さんより稼ぐ

お父さんは育児休暇が取れない

家を継ぐのは男

好きだといじめちゃう

祖父母の介護をするのはお母さん

お父さんは強い

男は泣かない

お父さんは怒るとお母さんを殴る。お母さんが我慢してる



料理はお母さんが作る

男の方が出世できる

お母さんは働いて家事もする。お父さんは仕事一筋

男子は女子が好き
そうでないと変

校長先生には男になる

男は男らしく
女は女らしく

政治家は男の方が向いている

総理大臣は男

それでも いいんだよ

男女の差別が本当になく世の中になります。自分の自分の意志で決めることが社会です。他と違うこと、そういう社会をダイバーシティと呼び、SDGsの目標のひとつにもなっています。なると、誰もが生きやすい生き方を、責任を持ってできる、それが望ましい多様性を受け入れること、

総理大臣が女性

お父さんも育児休暇をとる

男の子も泣きたいときは泣く

お父さんよりお母さんの方が稼ぐ

男らしくしろって言われたくない
女らしくしろって言われたくない

料理が得意なお父さん

男だからって強くない

ケンカに強いのが正義じゃない

お父さんは専業主夫

相手が男でも女でも、好きなものは好き

好きな人には優しくする

お母さんもフルタイムで働く

なりたい職業につく

男が大黒柱にならなくてもいい



●平等 (equality) の考え方

大人も子供も、若者もお年寄りも、全員に同じ重さの石を運んでもらう。これが『平等 (equality)』の考え方です。

そして本人が望めばもっと重たい石でも、もっと軽い石でも選択をする権利を誰もが持つこと、これが平等の権利を持つことです。

年齢や体力に応じた本人の意思によって、一人ひとり運ぶ石の重さが変わることは平等の権利を行使できた結果であり、公平 (Equity) です。これはとても大切な視点です。

逆に、本人の能力や意思に関わらず、男性だから重たい方、女性だから軽い方と、刷り込みや思い込みによって、他者が (悪意なく)、それを決めてしまうこと、は差別にあたります。

その延長として、例えば男だからと威張ったり、女だからと下に見たりするのは、とても思慮の浅いことなのです。

●区別と差別とグラデーション

女性の体として生まれてきたこと、男性の体として生まれてきたことは、生物学的な区別であって、差別ではありません。

ですが、身長や体格が全く同じ人はいないように、区別されたグループの中にもグラデーションがあります。体の特徴を男女で区別するのが難しい、あいまいな状態で生まれる、性分化疾患を持つ人がいることも知っておきましょう。

「女のくせに・男のくせに」や「女だから・男だから」といったことばの裏にある、「そうあるべき姿の押し付け」は差別であり、相手を傷つけてしまうこともあります。

区別と差別は「別の考え方」であることを忘れずに。

ちゃんと 考えないと いけないんだよ



●専業主婦・主夫願望

主婦・主夫って、楽な仕事だな、整理収納アドバイザー・料理研究家・お掃除専門会社など、それぞれの仕事にプロがいるほどです。楽そうだから、ではなく、自分の適性を考えた結果として専業主婦・主夫を選ぶこ

とされている人はいませんか？ 奥の深い仕事が「専業主婦・主夫」ではなく、自分の適性を考えた結果とがあっても良いのです。

●世の中にはたくさんの不平等が今もある

日本の学生のほとんどの人が、日本は男女平等の国だと考えているようです。でも本当は、世の中はたくさんの不平等であふれています。

例えば、東京大学の学生や理系の学生に男子が多いことは、男女に学力の差があるからではありません。地方に住む親が、自分の娘にだけ「お前は短大で充分」「地元の学校へ通いなさい」とすすめたりすることがあります。

また近年では、男性が有利になるように点数に下駄をはかせるという不正が複数の医学部で行われていたことが発覚しました。

結果として女性医師が増えにくい状況も生じています。さらに就職試験では履歴書の名前が女性名であるだけで女性の採用が不利になることが実際にあります。

これを無意識の差別、**アンコンシャスバイアス** (無意識の偏見や思い込み)、といいます。

このようなことが今の日本に実際にたくさんある、ということを知っておいてください。

●アンコンシャスバイアスの結果

世界共通認識のひとつに、「ジェンダーギャップ指数」というものがあります。※世界経済フォーラム発表

経済・政治・教育・健康の4つの分野で男女の平等を測ったものです。

日本はG7加盟153ヶ国中、111位~121位あたりをうろうろ。先進国の中で、日本はとても男女格差の大きい、不平等な国として知られているのです。

●好きなことを好きと言ってい

性別・年齢・肌の色に関わらず、自分の好きな人生を自由に選択し、生きる権利が日本の憲法に定められています。それは恋愛・職業、すべてにおいてです。他の人と違う事を恥じる必要も、隠す必要もなく、さげすむ権利もありません。それが平等な社会のあり方です。

第36回男女平等センターまつり

～きのう きょう あしたへ～

だれもが生きやすい社会へ

10月23日（土）、24日（日）の二日間にわたって、男女平等センターまつりを開催しました。コロナ感染状況は収束がなかなか見えず、今年度は、メイン展示・登録団体パネル展示、映画会を主に企画をしました。久々に男女平等センターに様々な彩りが加えられ、華やかな空間となりました。今回は、そのまつりの様子をご紹介します。

メイン展示

「ポスターに見る世界の女たち」



世界の女性施策を研究している三井マリ子さんが集めたポスターを紹介



時代や場所をこえて、ポスターから聞こえる女性たちの声!!



あなたの心に残ったポスターは?

団体パネル展示

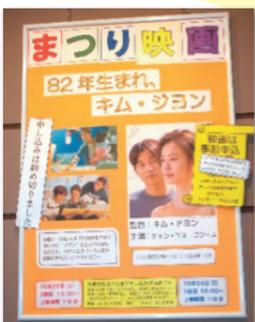


登録団体がパネルや作品を展示しました。今年度、舞台発表や飲食コーナーはありませんでしたが、日々の活動の様子を知ること、力強いパワーをもらいました。



まつりシネマ

「82年生まれ キム・ジョン」
「一粒の麦 荻野吟子の生涯」



現代社会で生きる女性の葛藤を描く



文京区ゆかりの人物で日本初の女性医師

資料コーナー

資料コーナー所蔵の本を紹介



「ものがたりから読みとる世界
～子どもたちにも知らせたいSDGs」



… 男女平等センターまつりアンケートから抜粋 …

- ・映画のチョイスがすばらしかった。良い映画を久しぶりに大画面で見ることができ、楽しめました。
- ・資料コーナーの展示で、センターと子どもを繋げるという発想が良いと思う。未来は子どもたちが作る!!
- ・団体の方たちの活動の中から制作されたパネルがとてもよかった。お部屋のレイアウトもすてきでした。
- ・ポスター展示の写真を通して、世界各地の女性たちのおかれている厳しい現実を見て、考えさせられました。



今後もセンターからイベントや企画を発信していきます。ホームページからもご確認頂けます。

<https://www.bunkyo-danjo.jp/index.aspx>



「文京オレンジデーキャンペーン」を実施しました

11月25日は、国連の定める「女性に対する暴力撤廃の国際デー」です。

UN Women（国連女性機関）は、「オレンジ色」を暴力のない明るい未来を象徴する色として、11月25日から12月10日（人権デー）までの16日間、街中をオレンジ色に染める呼び掛けを世界中で行いました。文京区もUN Women（国連女性機関）日本事務所と協力して暴力撤廃を呼び掛けました。

●オレンジライトアップ

11月25日から12月10日までの16日間、シビックセンターの三角屋根をオレンジ色にライトアップしました。



●パネル展示

文京シビックセンター1階ギャラリーシビックで、DV（ドメスティック・バイオレンス）等の暴力防止についての啓発や、相談窓口の紹介を行うパネル展を行いました。

その他、文京区女性団体連絡会を始め、区内の大学・団体など大勢の皆様にご賛同をいただきました。ご協力ありがとうございました。

●暴力防止啓発 メッセージ動画

文京シビックセンター地下2階マルチビジョン等で、区内協力団体のメッセージ動画を放映しました。

区YouTubeチャンネルからも視聴できますので、区ホームページ内リンクからぜひご覧ください。

協力団体（敬称略）

文京区女性団体連絡会、(公財)日本バスケットボール協会、(公財)日本サッカー協会、UN Women（国連女性機関）日本事務所、中央大学ダイバーシティセンター、拓殖大学2020広報プロジェクトチームOmotenashi T-girls



▲区ホームページ

●犯罪被害者支援出張相談所

故意の犯罪行為により身体的な被害を受けた方やそのご家族・知人など、犯罪被害者の方のために、区内警察四署（富坂、本富士、大塚、駒込）の協力により、相談会を実施しました。

人権啓発講演会「言葉の責任～インターネットの被害者・加害者にならないために」を開催しました

日時：令和3年10月17日（日）午前10時～正午

会場：オンライン開催

講師：スマイリーキクチさん（一般社団法人インターネット・ヒューマンライツ協会代表/タレント）

ご自身の体験を基に、ネット犯罪の恐怖やその対策などについて各地でご講演を行っているタレントのスマイリーキクチさんをお迎えし、ネットの誹謗中傷やデマの危険性についてご講演いただきました。

【参加者のご感想（一部）】

- スマイリーキクチさんのバックグラウンド、経験を通して、何が起こり、何が問題か、どう対処して、私たちは何に気を付ければいいのか具体的な分かり、大変勉強になりました。
- 自分に全く非がなくても、あるいは悪意がなくも、大きな苦しみ、被害につながってしまうことが、キクチさんが長きに渡って体験された苦悩の、具体的で重いお話からよく理解できた。
- 人を傷つけるのも言葉、人を救うのも言葉というメッセージが印象的でした。



カラーリボンフェスタを開催しました

日時：令和3年8月25日（水）午前10時～午後6時、

26日（木）午前10時～午後3時

会場：ギャラリーシビック

（文京シビックセンター1階）

カラーリボン（アウェアネス・リボン）は、社会運動や社会問題に対して、支援や賛同をさりげなく表す方法として用いられています。様々なリボン運動の活動を知り、支援につなげるため、リボン運動を一堂に会した展示会を行いました。

参加者からは「こんなに多様なリボンにそれぞれ込められた意味があることを初めて知った」「いろんな活動がつながって、大きな輪になるとよい」といったご感想をいただきました。



カラーリボン紹介

●パープルリボン

女性への暴力の根絶をはじめ、すい臓がんの啓発など社会や医療の各分野で用いられています。



●ホワイトリボン

すべての女性が、自分の意思で自らの健康と幸せな人生を選択できるようにと、世界に広がる支援活動のシンボルです。



●レッドリボン

世界に広がるHIVの防止、そしてHIV感染者/エイズ患者と共に生きる人々に対する理解・支援を象徴するシンボルです。



●レインボーリボン

平和やSOGIコミュニティを象徴する6色のレインボーフラッグから、多様性を認めるシンボルとして用いられています。



●オレンジリボン

子ども虐待防止運動のシンボルです。子どもたちの今、そして未来が、太陽のように明るく暖かくあるようにとの思いが込められています。



区ホームページにて全ての参加団体を紹介していますので、ぜひご覧ください。



1人で悩んでいませんか？～悩みの相談をお受けしています～

区では、夫婦、パートナーや親子などの家族関係、職場や地域での人間関係、性被害、SOGI（性的指向や性自認）などの相談をカウンセラーがお受けする「文京区男女平等センター相談室」を開設しています。

面談・電話による相談のほか、SNS（LINE、Twitter）でも相談できます。まとまった時間が取れない方でも、気軽にメッセージを送ることができます。ぜひご相談ください。

●来室・電話相談

☎03-3812-7149（要予約）

曜日	来室・電話 相談時間
月曜	10:00～16:00（受付15:00まで）
水曜	14:00～20:00（受付19:00まで）
金曜	10:00～20:00（受付19:00まで）

※祝日、12月28日～1月4日、男女平等センター休館日を除く

詳細は、区ホームページをご覧ください。

●SNS（LINE、Twitter）相談

ID「@bunkyo_soudan」で検索
又は区ホームページのリンクからご利用ください。

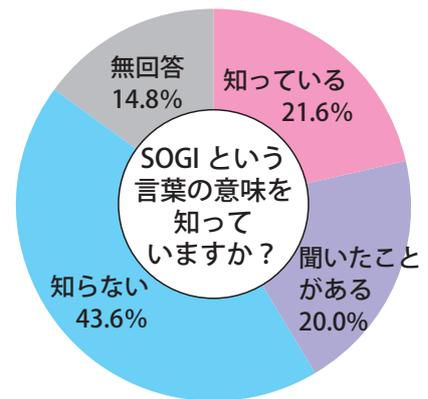
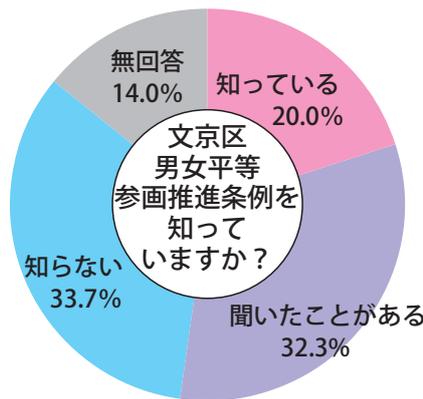
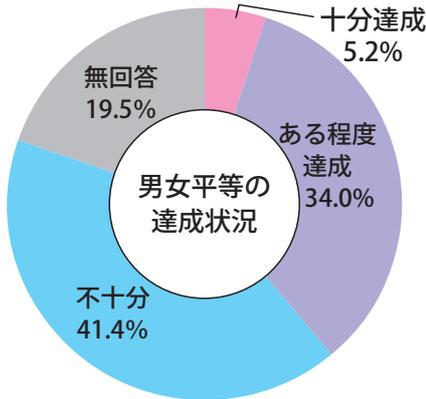
日時：火・木・土曜

14:00～20:00（受付19:30まで）

※祝日、12月28日
～1月4日を除く



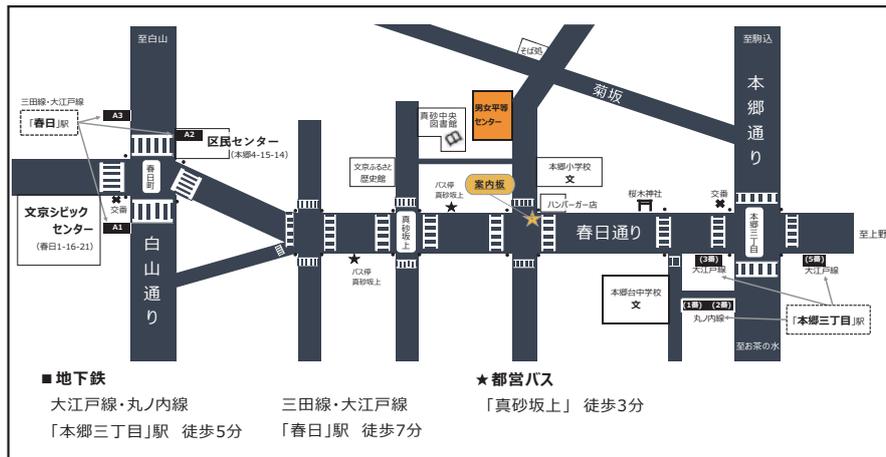
令和2年度 利用者アンケート結果 その2 令和3年2月8日～3月31日実施



※各グラフの割合は表示単位未満を四捨五入しており合計が100%にならない場合があります。

希望する事業

- 日常の中にひそむ男女不平等について
- ジェンダー平等に一層力を入れて！
講座、学習、講演事業
- 介護セミナーなど
- 運動家、活動家、企業で働く女性の講演会
- コロナが収まれば、これまで開催されてきたような講演に参加したい
- ワークショップの様な体験事業
- 高齢者が暮らしやすくなる情報がほしい



編集後記

マシモユウさんのイラストが印象的な『これからの男の子たちへ』(大月書店)に触れたことから、今回の私たちの企画が始まりました。

著者の太田啓子さんは、「自分の子ども時代とあまりに違う生態」である息子たちに、何を教えていくべきかを日々考え、DVや性、男女平等など、多岐にわたってまとめられています。今号のEqualityの特集では、男の子たちが男女平等・不平等について、気がついてくれる、一緒に考えてくれるきっかけになればという思いで編集しています。どうか彼らが、今よりも、よりよい未来を作っていくてくれますように・・・

表紙のイラストの使用許可を下された大月書店さん、ありがとうございました。(大内)



2021年12月24日発行 文京区女性団体連絡会会長 千代和子

編集担当 広報部 大内悦子・近麻希・面来美保

〒113-0033 文京区本郷4丁目8番3号 Tel.03-3814-6159 Fax.03-5689-4534

文京区男女平等センターは文京区女性団体連絡会が指定管理者として管理・運営しています。